

(社) 日本建築学会 近畿支部
2008 年度第 5 回空気環境部会議事録 (案)

日時 : 2009 年 2 月 3 日 (火) 15:00~18:00
場所 : 建築学会近畿支部
出席者 : 東 (賢), 阿部, 井上, 小林, 竹村, 檜崎, 新田, 西岡, 山中, 東 (実), 甲谷 (記録), 部会員 11 名
資料 : 議事次第・2008 年度第 4 回空気環境部会議事録(案) (資料 5-1)
平成 21 年度空気環境部会部会予算請求書 (資料 5-2)
空気環境部会平成 20 年度報告および平成 21 年度活動計画 (資料 5-3)
ADTEC-Technical Report (文献× 1) (資料 5-4)
テストチャンバー実験及び CFD 解析・・・(文献× 1) (資料 5-5)
【以下は第 4 回部会からの持越】
家具の化学物質放散資料 (井上委員, 文献× 1) (資料 4-5)
家具の化学物質放散資料 (東賢一委員, 文献× 1) (資料 4-6)

・前回議事録案 (2008 年度第 4 回) が承認された。

議事 :

1. 家具の化学物質対策に関する話題提供 (井上委員, 東賢一委員)

- ・資料 4-5 に基づき, 大型チャンバー法による木製家具からの HCHO 放散量測定の紹介があり, 以下の議論があった。
 - ・作成目的, 規格策定を目的としているのか。
 - ・一般的に家具測定における棚板はどう扱うのか, 作り付けの場合は異なる
 - ・家具の場合はトータルでの放散量なのか部材の放散量なのか。
 - ・輸入部材の場合はどのような等級化なのか
 - ・水蒸気換算物質伝達率を小型チャンバーに揃える意味。
 - ・n/L の意味は単位放散面積あたりの換気量, それが増加すると平衡濃度は下がる。
 - ・HBF 式は一般的なものなのか
 - ・攪拌装置の性能, 表面風速の測定点
 - ・ADPAC の仕様
- ・資料 4-6 に基づき, 木製ベッドから発生する化学物質 (国民生活センター) の紹介があり, 以下の議論があった。
 - ・試験室のベース濃度は差し引かれているのか。
 - ・実験室, 実験方法に関して不明な点が多い。
 - ・建物全体としてのラベリングとして品確法があるが, ホルムアルデヒドは必須で他物質は任意。
 - ・国民生活センターと同様の期間は, 民間レベルで例えば PL センター等がある。

2. 来年度の活動計画

- ・資料 5-2 に基づき, 主な研究テーマ, 第 3 回空気環境シンポジウム (案) の検討を行った。
- ・シンポジウムの内容によって重点テーマを決定する必要があり, フリーディスカッションを行った結果, 以下 2 点に基づいたシンポジウムを開催することを目標として, 部会活動を行うこととした。
 - ・住宅における家具の化学物質問題
 - ・これまでの継続
 - ・規制, 測定法
 - ・住宅の換気問題
 - ・24 時間換気の問題
 - ・24 時間換気無しで確認申請を通しての取り組み
 - ・設計者や実務者による現状認識を知る
- ・来年度は, 山中俊夫主査, 東実千代幹事, 桃井良尚幹事で運営していくことが確認された。

3. 今年度の活動報告

- ・資料 5-3 に基づき, 環境工学部会にて今年度の活動報告を報告することとした。

4. その他

- ・資料 5-4, 5-5 は次回に持ち越しとする。

次回 5 月 12 日 (火) 15:00~18:00 場所: 建築学会近畿支部
内容: 家具の化学物質に関する話題提供, 換気問題に関する話題提供